

二〇二五年度

人文社会学部

学力試験

記述式総合問題

試験開始の合図があるまでに、次の注意事項をよく読んでください。

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 二、机の上には、受験票・鉛筆・シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削り（電動式は除く）・時計（時計機能だけのもの）・眼鏡以外のものは置かないでください。
- 三、問題・解答用紙の両方に必ず受験番号・氏名を記入してください。提出の前には記入漏れがないか再度確認してください。
- 四、問題は一問です。（三〇〇字以上）
- 五、試験中に問題冊子の印刷不鮮明・ページの落丁・乱丁に気付いた場合、また問題の内容について質問などのある場合には、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 六、問題冊子の余白等は適宜利用して構いません。
- 七、配布された問題・解答用紙は試験終了後回収しますので、持ち帰らないでください。

◇携帯電話は、電源を切ったうえで鞆の中に入れてください。

志望学科・コースの上枠に○をつけてください（第一志望のみ）

受験番号	
氏名	志望学科・コース
	人文社会学部
	小学校・特別支援コース
	保育・幼稚園コース
	福祉コース
	メディア文化コース
	グローバルコミュニケーションコース
	経営コース
	トレーナー・スポーツ経営コース
	経営情報コース
	観光経営学科

【問題】 次の文と図から、「行動することの意味」について、あなたの経験を踏まえ、考えを三〇〇字以上で述べなさい。

- ・「成功」の反意語は「失敗」である
 - ・「賛成」の反意語は「反対」である
 - ・「好き」の反意語は「嫌い」である
- これらは小学生にもわかるような「常識」に見えます。本当にそうでしょうか？

今回は、こうした固定観念を異なる視点から見ることで新しいものの考え方ができるといって、「やわらかい頭の使い方」の事例を解説したいと思います。

まずは『「成功」の反意語は「失敗」である』という常識を、違う見方で見てみます。成功と失敗は、一般には何らかの結果の「両極」であると考えられるために、これらが反意語と見なされるわけです。つまり、下図の上段の横棒上のような関係になります。

ここでは成功と失敗が両端にある構図ですが、視点を変えるためにこの軸を真ん中から二つに「折り曲げて」みます（図の中段）。

こうすると、左の端には「成功」と「失敗」が並び、右端にはそれらの中間、つまり「成功でも失敗でもない」という状態が位置づけられます。ここで「成功でも失敗でもない」という状態を、改めて考えてみましょう。そもそも何かをやれば、その結果がうまくいけば「成功」となり、そうでなければ「失敗」となります。たとえばそれが失敗でも、やった結果やそこからの教訓は残るし、やった前とは状況は確実にちがってくるはずなんです。しかし、何もしなければ、「成功でも失敗でもない」状況がずっと続くことになります。そう考えると、「成功でも失敗でもない」という状況を一番作り出すのは「何もしない」という状態であることに気づきます。

そう考えれば、この半分になった軸の両端が再び一つの考え方の軸になっていることがわかります。つまり、「何か行動する」と「何もしない」という二極になるといえることです（図の下段）。

この構図からおわかりでしょう。「成功」と「失敗」は実は紙一重の「同意語」で、それらの反意語は「何もしないこと」ということになるのです。



